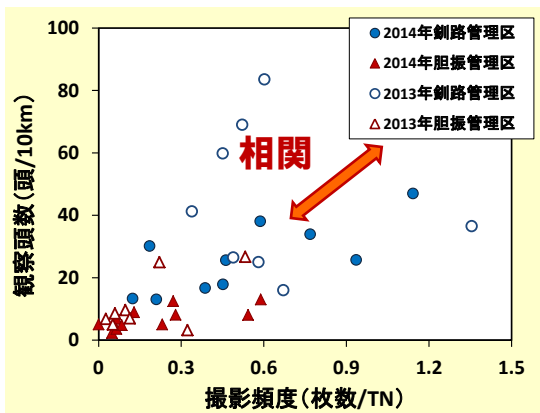


## 背景

- ・エゾシカの生息数は、全道で約64万頭と推定され、農林業被害や交通事故など人間とシカとの軋轢が著しい。
- ・森林においてシカ密度を把握して効率的捕獲を行い、被害や生態系への悪影響を軽減することが急務。

## 成果

### 1 シカ生息状況（密度）の把握

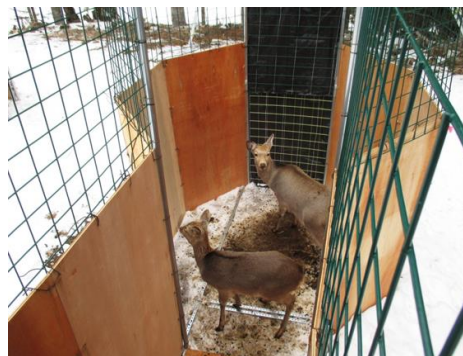


オシダ(指標種)の食痕は専門家でも判別がしやすい

- ・調査地別の観察頭数と撮影頻度が高い相関～カメラ法の有効性
- ・撮影頻度、木本・草本の食痕率を用いると捕獲の効果（密度・影響の変化）の測定が可能

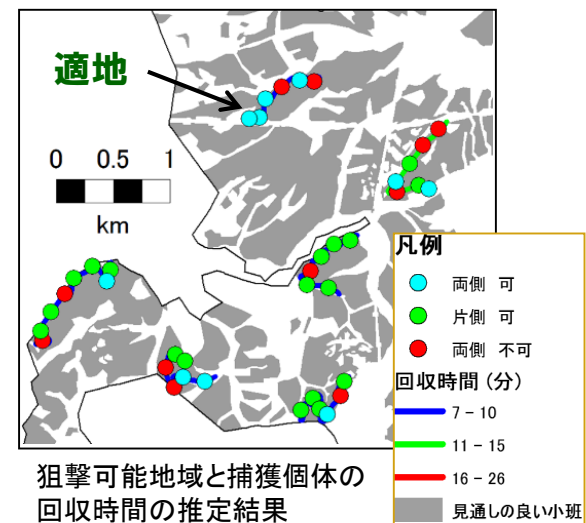
### 2 捕獲技術（ワナ）開発

- ・移設が容易で複数頭を捕獲可能なワナを開発
- ・製品化をすすめる



開発した簡易囲いワナによる複数頭の同時捕獲(釧路の道有林で、車を用いた誘引狙撃法と組合せて実施)

### 3 捕獲適地の抽出



狙撃可能地域と捕獲個体の回収時間の推定結果(胆振の道有林の事例)

- ・林齢と地形からワナ適地抽出が可能
- ・見通し度、安全な地形の有無、個体の回収時間から銃猟適地を抽出

## 期待される効果

- ・銃とワナ捕獲を組み合わせた効果的な捕獲手法の確立（簡易囲いワナについては特許出願中）。
- ・捕獲&調査マニュアルによる森林所有者への技術移転、森林施業とシカ個体数管理の計画的な実施の推進。